

がえる
雇用
増

企業と人が動き活気を生む

市内に誘致などした企業がいよいよ動き始めています。また、市内で働きたいと希望する若者の就職活動も熱気を帯び、新たな雇用の創出による総社のまちの活性化が期待されます。

大黒天物産「中国物流RMセンター」着工

中原市内のユニチカ跡地へ市が誘致した大黒天物産株式会社（本社・倉敷市）が7月26日、加工食品や生鮮食品などの生産・物流の拠点となる「中国物流RMセンター」の建設に着手しました。

7万3316㎡の敷地に、食品加工施設（鉄骨造平屋建て。延床面積1万6307㎡）と物流倉庫（延床面積2万2068㎡）を整備。平成27年10月の操業を目指します。食品加工施設では、調理員が総菜を手作りしたり、プライベートブランド商品の麺、豆腐などの生産、精肉の加工などを行います。物流倉庫には、食品や飲料水など



大黒天物産株式会社の生産・物流施設「中国物流RMセンター」の完成イメージ（写真上）。7月26日に建設予定地で行われた地鎮祭で、工事の無事を祈り鎮入れをした、大黒天物産株式会社の大賀昭司代表取締役社長（写真右）



の活性化と税収の増加も期待されます。

同社は、デイスカウントストアの「ラ・ムー」「デイト」など、西日本を中心に99店舗を展開しています。

株式会社モンテール 総社工場 本格稼働



9月1日から本格稼働する株式会社モンテール 総社工場。併設している店舗では洋菓子の販売と喫茶コーナーがあり人気を呼んでいる

中原市内に昨年9月から建設中だった株式会社モンテール（本社・東京都）の「モンテール 総社工場」が完成し、9月1日から本格稼働します。

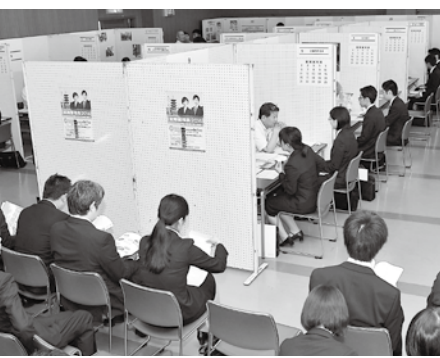
この工場は、鉄骨造2階建てで、延床面積は1万6084㎡。洋菓子の主な原材料である生乳や卵の生産地に近く、関西・中

国・四国をはじめとした近隣エリアへのアクセスがしやすい立地特性を生かし、西日本エリアのチルドデザートを生産・物流拠点として洋菓子を製造、供給していきます。

新規大卒者等就職面接会開催

地域社会を担っていく若者の就労と市内企業の雇用を支援するため、新規大卒者等就職面接会を8月7日、総合福祉センターで開催。市内で就職を希望する若者100人が、自分に合う職を見つけようと、真剣

に面接に臨んでいました。市内の製造業や福祉・医療関係などの優良企業22社が面接ブースを開設。市が誘致した大黒天物産株式会社も操業開始に向け、この面接会に参加しました。



緊張しながらも企業の担当者に質問する学生ら。面接の順番を待つ学生らも多かった。

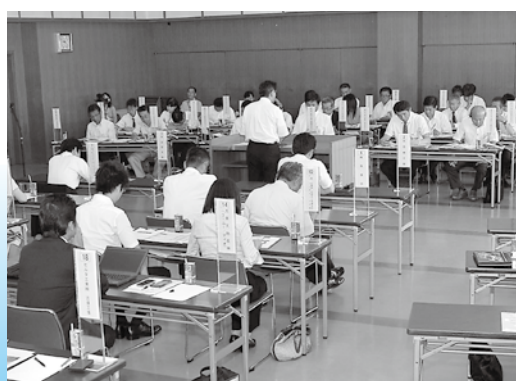


意気込みにあふれた学生らが熱心に企業の面接ブースを回った

る企業の担当者の話に熱心に耳を傾け、情報を収集。また、企業側も、若く、やる気のある優秀な人材の獲得につながればと、企業の特長や将来性などを丁寧に説明していました。

参加した女子学生（下林）は、「直接話を聞くことができてとても参考になりました」と。男子学生（久代出身）は、「県外の大学に進んだが、就職は地元でしたい」と思い参加しました。詳しい話が聞けてよかった」と感想を話しました。また、この市主催の面接会は、今年で3回目。倉敷中央公共職業安定所総社出張所、総社地区雇用開発協会、総社商工会議所、総社吉備路商工会と共催で開催しました。

高校教諭と市内企業が情報交換



市内企業の採用担当者の話を聞く高校教諭ら

若者が地元で就職できるよう、高校の進路指導教諭と市内企業の採用担当者情報交換をする総社地区産業事情説明会（市と総社地

区雇用開発協会の主催）を7月24日、総合福祉センターで行いました。県内の高校28校が参加。参加した進路指導教諭らは、高校生の就職につながるべく、市内の製造業やサービス業、福祉関係など22社の担当者から事業所の説明を聞き、地域の特徴や職場の事情、採用状況などについて理解を深めていました。また、企業2社の職場見学会を実施。実際の職場や働く人の様子を知る機会としていました。